

「脱炭素はだの市民会議」会議録

第4回市民会議

日時 : 2025年11月22日(土) 13:00-17:00

会場 : 上智大学上智短期大学秦野キャンパス4号館 411号室

参加市民 22名

市民提案の修正案報告者

- ・住まい 大塚彩美(東京大学)
- ・食と消費 村上千里(環境政策対話研究所)
- ・地域資源 大塚彩美(東京大学)
- ・移動・交通 石野耕也(環境政策対話研究所)

全体ファシリテーター 岩崎茜(サイエンス・コミュニケーター)

1. 目標

アウトカム

- ・「未来のありたい秦野」を実現していくために、提言の内容を実践していきたい、市民会議の参加者以外にもアクションを広げていきたいと思えている。

アウトプット

- ・脱炭素はだの実現に向けた市民提案が、概ね完成している。

2. 会議の進行方法

〈タイムスケジュール〉

時間	内容
13:00	オリエンテーション
13:10	チェックイン、自己紹介
13:15	進め方ガイダンス
13:25	グループワーク①:住まい
13:55	グループワーク②:食と消費
14:20	休憩
14:30	グループワーク③:地域資源
15:15	グループワーク④:移動・交通
15:35	休憩 ありたい未来の秦野×脱炭素、市民提案のうち押し提案にシール貼り、「はだのおすすめ脱炭素マップ」にさらに書き込み
16:00	市民提案の修正案の紹介と質疑応答
16:35	今後について
16:40	チェックアウト
16:50	集合写真、閉会挨拶
17:00	終了

3. 会議の記録

(1) 開会挨拶、オリエンテーション、チェックイン

メインファシリテーターの岩崎氏から、タイムスケジュールと全体的な流れについての説明があった。全員が、住まい、食と消費、地域資源、移動・交通という4つのテーマごとに、ブラッシュアップすること、この日は同じグループで話し合うこと、前回、各グループから出された提案を整理して、統合案を作成、ドラフトの形で参加者に配布していること、などの説明があった。

市民提案がどのように活用されるかについては、前年に開催された脱炭素かまくら市民会議などの事例を紹介。報告書や小冊子としてまとめるほか、ウェブサイトなどでも公開し、多くの市民に知ってもらい、脱炭素に取り組んでもらえるようにしたいと述べた。

市民提案の最終案が確定したら、各提案について、推進すべきかどうかを市民会議の参加者に投票してもらい、賛成が半数に満たない提案は市民提案から外す方針を示した。

(2) 進め方ガイダンス

岩崎氏が、市民提案ドラフトのブラッシュアップの進め方について説明した。他のテーマへ移動、統合した提案やファシリテーターと市民有志が補足した提案、専門家からの助言や意見などを色分けした提案ドラフトと市民からの意見を元に、各グループで修正案を記入、その理由を付箋に書く。話し合う順番は、持ち寄った「気になるところ」を確認の上、各グループに割り振られた部分を10～15分、次に参加者が持ち寄った部分を10分、時間があれば次の部分という形で進める。その後、各グループで市民提案のブラッシュアップを行った。

(3) グループワーク① 「住まい」のブラッシュアップ(25分間)

グループワーク② 「食と消費」のブラッシュアップ(25分間)

休憩前に、岩崎氏から、グループワークでブラッシュアップされた案は、専門家と実行委員が別室で修正案に反映し、本日の最後にまとまった修正案を紹介すること、その後、加筆修正、体裁を整理して、参加者有志が参加するワーキングを行い、最終案を確定することが伝えられた。

グループワーク③ 「地域資源」のブラッシュアップ(40分間)

グループワーク④ 「移動・交通」のブラッシュアップ(20分間)

修正を反映するため、20分間休憩とした。その間に、岩崎氏から参加者に、自由参加として、3つやることを紹介した。①「ありがたい未来の秦野」と脱炭素の市民提案とのつながりを線でつなく、②市民提案のうち実現したいと思うもの3つを推し提案としてシールを貼る、③前回、参加市民で作った「はだのおすすめ脱炭素マップ」にさらに書き込みをする。

(4) 市民提案の修正案の紹介

■「食・消費」について:村上氏が以下のように報告した。

固有名詞はできるだけ外したが、一部は残した。「秦野ブランド」は既にあるため削除、ヴィーガン食を「動物性を使わない食事」に書き換える提案は、残した方がいいなどの意見をふまえ「CFP の低いヴィーガン食など」として残した。

「じばさんず」に関しては、「地元住民が購入しやすいように」、「自転車や徒歩で行ける2号店、3号店がほしい」を加筆した。マルシェについては、市は休日だけではなく、平日も開催してほしいとの希望を加筆、ドリンクバー方式については、「中身だけ入れられるサービス」を補足した。

大家族向けに大容量パッケージの選択肢を増やすという提案については、食品ロスにつながり、プラ削減にもならないので、削除という意見を踏まえ削除した。

フードバンクの活性化については、市民団体や市はフードバンクの拠点を増やす。その情報提供を充実させると加筆した。山の恵みを生かすについては、イノシシやシカがいなくなるとは続けることができないので、「個体数が多い間は」と加筆。行政は猟友会のメンバーが増えるように支援するという新提案もあった。5.のタイトルについては修正提案があり、反映させた。

洋服や物を大切に長く使うための「安くリペア」については、経済的に成り立たせるため、「安く」を削るという提案を反映。それを知らせる取組みや子ども用品や介護用品などを扱うフリーマーケットの開催、レンタルについての提案などを加筆した。

ディスプレイは、生ゴミ処理自体をどうしていくのかを「みんなで検討する」とした。リユース容器に関しては、「容器にパウチなども採用する」という新提案があったが、「使い捨てプラスチックになる」との専門家のコメントが出ている。粗大ゴミを他国に送るという提案には、経済的に成り立たない可能性が高いので、難しいという意見があり、いずれも追記しないこととした。(参加者は合意)

■「住まい」について:大塚氏から以下のように報告した。

住まいについては、断熱材の種類や構造のサンプル、築年数、建物の種類、コストなどを比較できるといい、という意見があった。それらを全部盛り込んで文言を整えていきたい。DIYは無理ではないかという意見もあったが、実行例も各地にたくさんあり、いろいろな人が協働して、「市民が作る」で終わるのではなく、「作れるように紹介する」という書き方にしてはどうかと考えている。

「太陽光発電に関するHEMSを設置する」という部分は、「スマートメーターから取得できる情報をより見やすくしていく」のような形で書き換える。手軽に申請ができる支援が必要だと思うので、事業者工務店は説明しつつ、申請書類を一緒に作成できるようにするという提案を追記している。行政側も申請手続きを簡略化すると追加してはどうか。建材については、「秦野や神奈川県など地元産」という形に変更した。地域電力についてはペンディングとする。

■「地域資源」について:大塚氏から以下のように報告した。

地域資源については、「秦野駅を地元産の木を使ったイメージ」を削除する意見があったが、公共施設でのアピールは重要なので検討事項とした。「ウッドチップ」を削除するという意見もあったが、ウッドチップ自体は残す方向で、全体の書き方を調整する。

地元の木製品を増やしていくについては、既にある既存の工業や作家にも配慮することを追加する。学校の授業などでも地元産木材を活用することを追加する。ブランド認証に関しては、すでにあるので、木製品の登録を増やす方向でさらに進めていく。秦野ブランドを市民に対してもっと広報し、親しみを醸成するという形にしていきたい。

木製の断熱材については二つの意見があったが、残すという方向は一緒なので、追加して書き換える。補助金を作るというところは書き方を検討する。ペレットストーブ、個人での薪ストーブも入れて残す。ウッドチップ舗装については、エリアを限定してマップを作って配布すると書き換える。パラソルについては、バス停に地元産の木材で東屋を作って日陰を作ると統合する。室外機は削除。水無川のイベントは例として残したい。

太陽熱は残す。「地域で共同太陽光パネルを導入する」は、「秦野産の地域電力のイメージ」と複数のグループから意見をもらったので、その方向で書く。

ゾーニングも残す方向。太陽熱と熱エネルギーのところを合わせて整えていきたい。

地域資源を生かした地下水、豆腐、もやし、酒、観光などを、産品としてもっと地域活性化に生かしていくというような書き方で、どこに入れるかを検討する。

岩崎氏から、質疑応答の時間が十分に取れず、この場ですぐに意見をもらうのが難しいため、会議後に参加者に修正を反映したファイルをメールで送り、意見をメールで受け付けることになったとの変更が伝えられた。

■「移動・交通」について:石野氏から以下のように報告した。

「子供のバス料金を安くする」については、小田急だけでなく神奈川中央交通でもやっているとの意見があり、書き加えた。「バスに乗りたくなる魅力ある景観」は、削除するという意見と、書き方を変えて具体性を持たせるという2案があり、この後のワーキングで決めていただく。

自転車の利用に関して、整備する主体から「地域」を取る。自転車を利用して得になる仕組み作りは、事業者だけでなく、「市と事業者」にする。「自転車で走りやすい道路にする」には、削除意見があった。ヘルメット購入の補助金は、既にやっているので、削除するという意見があった。

徒歩を生かしたイベントとして、近隣の市民も参加できる「はだのウォーキング大会」の開催という意見があった。歩きたくなるような歩道作りに、運動公園などに情報を紹介する場所を作ってみんなに知ってもらうという意見を加えた。歩いて温泉に来る人の料金安くするという意見は、徒歩によりポイントがたまるアプリの例として整理した。

事業者による自動車移動販売を増やすため、市が利用のメリットを知らせたり、移動販売業者に補助してはどうかという意見を加えた。置き配について、事業者が集合宅配 Box 設置に補助する提案を入れた。、交通が不便な地域でシルバーの方に運転手をしてもらう意見には、高齢者の運転は不安があり、削除とした。

カーシェアリングについて、市と事業者の協力でサービスを検討・実施してはどうかという提案とした。免許の返納は、自家用車の利用を減らすのにつながるか不明という意見があり、削除した。自家用車の購入を控えるよう課税する提案は、政府への要望なので趣旨が異なり、削除することにした。

EVに関連して、事業者は市民の生活動線に対応した充電施設を増やす提案を入れた。

(5) 質疑応答

岩崎氏が、現段階で確認したいことやコメントしたいことについて 1~2 の質問を呼びかけ、一人から提案及び質問があった。

質問 1:住まいの 4 番について、市民は、引っ越し時などには太陽光発電の設置されているアパート、マンション等を選ぶとあるが、市民の市内での引っ越しだけでなく、転入者も対象にしてはどうか。違う地域から来る転入者は、電力会社を変える状態にあり、太陽光パネル付きのマンションなどの物件を、不動産屋から推奨されれば、そちらを選択するのではないかと。市民提案に追加してはどうか。

もう一点、住所変更した時に、市が再エネ関連の電力会社や物件を勧めるなどの働きかけは、法律として可能なのか。

回答(大塚氏):転入者にも変えてもらう必要があるというのは、このリストにはないが、非常に重要な視点だと思う。今ここですぐにお答えはできないが、そういう視点を持って全体を整えていきたい。引っ越しをしてくる方に情報提供するというのは、4-1 に入るかもしれないが、書き方も工夫して、ご指摘いただいたこと、コメントいただいたことを反映できるように整えたい。

情報提供の範囲で、市民提案が政策になった時に、転入時の対応として、秦野市でやっている政策の情報の提供は、やり方としてはあるのではないかと思う。市役所と相談して、具体的にできることを考えたい。

(6) 今後について

事務局の村上から今後の進め方について、次のような説明があった。

まだ文言が確定できてないところも含め、担当者で今日の意見を反映させた市民提案(案)を作り、12月初めに市民有志と専門家による提案の最終化ワーキングを開催する。みなさまには、事前にメールで送るので、気になっているところについては、ワーキングまでに事務局にメールで意見を送ってもらえば、合わせて検討する。

確定した最終案について、各提案への投票を12月10日以後に実施する。同時に、この市民会議がどうだったかという最終アンケートを全員にお願いしたい。年明けには、出来上がった市民提案を市長に届けるので、参加者を5人ほど募集する。

1月18日にはフォローアップ会議を開催する。参加は任意だが、できれば多くの人に集まっていただき、市民提案をどうすれば実現していくかについて、話し合う場を設けたい。

市民提案は、分かりやすい小冊子にまとめて発行し、皆さんにお送りする。事務局では、報告書も作成する。小冊子を送ったあと、3月後半には参加者の住所などの個人情報の名簿を破棄して、一連の市民会議を終了する。

今後、一緒に何かやっていきたいと思う人もいると思う。その活動に参加するか、しないか、その情報を受け取るか、受け取らないかという意思表示を最後にもらい、その人たちの名簿は残し、次の脱炭素はだのの実現のための活動につなげていきたい。

(7) チェックアウト&閉会挨拶

終わりに、参加者で全4回の市民会議を振り返り、感想をグループ内で共有した。

その後、秦野市環境共生課の谷課長は、市は地球温暖化対策実行計画を進めており、市民提案がまとまる中で、こういった政策・計画を後押ししてくれる提案をたくさんもらえることを期待していると挨拶した。

また、脱炭素はだの市民会議実行委員会の勝田委員長は、ここで議論した一番重要なことは、地域から我々が行動していく、そして地球全体を考えるということだと思う。非常に有意義な時間だったと締めくくりの言葉を述べた。

最後に、参加者と関係者で記念撮影をして、全4回にわたる脱炭素はだの市民会議は終了した。

以上